



背景・課題

- 水濁法等に基づき、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海において8次に涉り汚濁物質の総量を削減



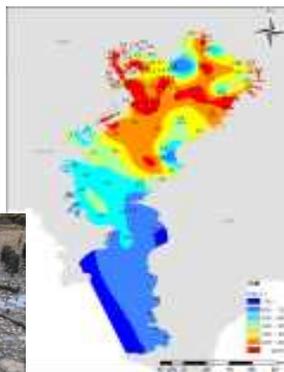
- 水質は改善傾向であるが、依然として**赤潮・貧酸素水塊等の問題が発生**

- 水産資源（漁獲量等）の減少など**生物多様性・生物生産性の確保**に係る課題、**気候変動の影響**など新たな課題が顕在化



富栄養化による課題 (水質に係る課題)

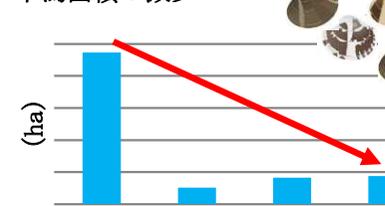
- **赤潮の発生**
→ H24.7宇和海で10億円被害など
- **貧酸素水塊（底層DO）の発生**
→ 底生魚介類のへい死
→ 無生物域の形成



生物多様性・生物生産性に関する課題

- **藻場・干潟の減少**
→ 生態系構造（生息環境等）の変異
- **水産資源の減少**
→ 生物生産力の低下への危惧（養殖ノリ、アサリ等）

干潟面積の減少



底層DO等の改善対策

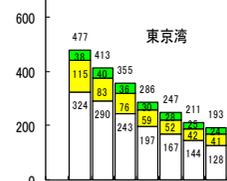
- 新たな環境基準等（底層DO、沿岸透明度）に係る効果的な改善手法の検討・評価



◇ 環境基準等を踏まえた総合的な水環境改善対策の推進

水質総量削減の方向性の検討

- 総量削減状況等の把握
 - ・ 発生負荷量等の算定・把握
 - ・ 広域総合水質調査
- 水質の将来予測



◇ 今後の水質総量削減の方向性の検討

瀬戸内海等の豊かな海の確保

- 水環境（栄養塩類、生物生息場の状況等）と生物多様性・生物生産性の関係の分析・評価
- 気候変動の影響と適応策の検討
- 藻場・干潟の分布状況の把握



◇ 豊かな海の確保に向けた方策の在り方